

DATA：耳鼻咽喉科

- 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設 ●日本睡眠学会認定施設
- 主な対象疾患：【鼻副鼻腔疾患】慢性副鼻腔炎、副鼻腔良性腫瘍、副鼻腔嚢胞、眼窩吹き抜け骨折、鼻中隔彎曲症、難治性鼻出血、下垂体腫瘍などに対する内視鏡下鼻副鼻腔手術 【睡眠時無呼吸症候群】簡易アプノモニター検査、終夜ポリグラフ検査、CPAP療法、手術療法、口腔内装置など【アレルギー疾患】鼻アレルギーに対する手術 【中耳炎】慢性中耳炎・中耳真珠腫に対する鼓室形成術、小児の反復性・難治性中耳炎 【その他】頭頸部腫瘍、顔面神経麻痺、突発性難聴、めまい症に対する治療

鼻副鼻腔を専門とする飯村医師

当科には常勤4名、非常勤4名が在籍、うち6名が専門医です。それぞれの専門領域は鼻副鼻腔、咽喉頭、耳、頭頸部と広範囲にわたり、睡眠障害や摂食・嚥下障害などの機能障害をも扱います。年間の手術件数は、鼻副鼻腔に関する手術が約300件、咽喉頭に関する手術が約100件、耳に関する手術が約100件、その他約100件と、600件以上になります。これらの手術は、嗅覚、味覚、聴覚などの感覚器が対象であり、支障を来すことで生活の質が低下してしまうため機能回復を目的に行われています。2018年1月、鼻副鼻腔の内視鏡手術を専門とする飯村医師を迎えたことでより一層鼻副鼻腔領域の専門性が高まりました。鼻副鼻腔の手術において内視鏡手術は標準的な術式となっていますが、より高度な術式が開発されました。当院でも様々な術式が導入され、以前には外切開で施行されていた手術が内視鏡下手術の適応となっています。また、鼻中隔矯正術においては変形した部位を切除することで機能や形態の回復を図りますが、この方法では十分な回復が得られないという症例がありました。そこで、変形した骨、軟骨などを不適切な位置から離断し、形成したうえで適切な位置に固定するといった新しい方法（鼻中隔外鼻形成術）を用いることで、より高度な治療が行えるようになりました。

術後管理も短縮

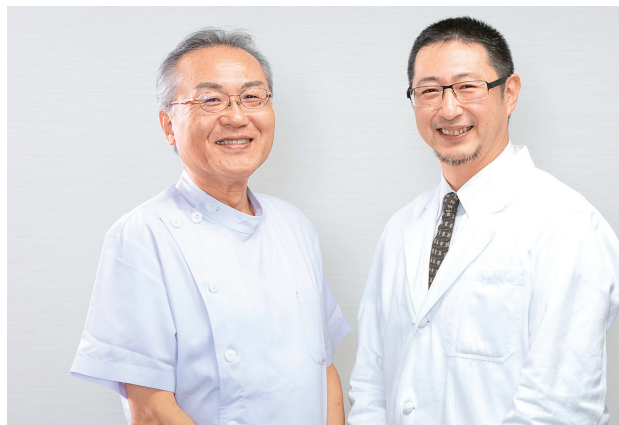
また、術後管理においてもこの数年で大きな変化が起きています。従来、鼻副鼻腔の手術では術後の出血を押さえるため圧迫用のガーゼを鼻腔内に留置していました。この方法は抜去時には大きな痛みを

内視鏡下鼻副鼻腔手術を、実践する。

伴うという問題がありました。しかし現在ではゲル化する綿の止血剤を使用することで痛みは少なくなり、さらに止血効果、創傷治癒が高くなり術後の安全性が向上しました。そのため術後管理も進歩し、最短で術後2日での退院も可能となりました。

内視鏡下鼻副鼻腔手術V型を満たす

さらに、より複雑な手術においてはCTと連動したナビゲーションシステムを活用しながら、安全で確実な手術を行っています。従来、外切開で行っていた前頭洞手術も鼻腔から内視鏡を用いて行うことが可能となりました。この前頭洞単洞化手術や頭蓋内、眼窩内への手術はもともと難易度の高いV型に分類され、特定の施設でしか行うことができません。飯村医師の参加によってこの施設基準を満たすことになりました。今後は地域の基幹病院として、より大きな役割を果たしていきます。



連携を重視し、治療を行う

耳の領域では慢性中耳炎や真珠腫などの治療を行っています。より高度な治療が必要な場合には

他科との連携、チーム医療のなかの耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科

連携している大学病院へ紹介するなど、適切なマネジメントを行っています。

摂食・嚥下領域では、摂食・嚥下チームの一員として脳梗塞や手術による嚥下障害を中心に対応しています。外科医、内科医、薬剤師、栄養士などが参加するチームで障害の状態を評価し、次の施設に移ったとき、どのようなリハビリを行うかなどを検討します。これは、現在進められている地域連携において重要な役割といえます。また、神経筋疾患、パーキンソン病、アルツハイマー病など神経内科領域の患者の摂食障害に対しては、非常勤の医師を中心とした診療体制がとられています。症例として、誤嚥性肺炎を頻発する患者に対して喉頭分離術の適応と判断し、連携している病院への紹介を行うということもありました。また、胃瘻設置時に求められる嚥下内視鏡を使った嚥下障害の診断も、耳鼻咽喉科の重要な仕事のひとつです。

歯性上顎洞炎への対応

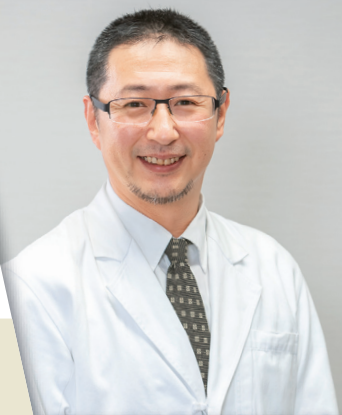
最後に、耳鼻咽喉科は歯科と近接した領域であるため、歯科・口腔外科との連携も重要となります。副鼻腔炎、上顎洞炎の原因が歯性であることや、逆に副鼻腔の炎症が歯に及ぶといったことも少なくありません。このような症例に対しては耳鼻咽喉科のみならず歯科・口腔外科と合同で治療に当たります。診察においても綿密な相談を行い、両科の医師が適切な治療を行います。そうしたなか、可能な限り抜歯を避け、内視鏡で上顎洞に入り歯根尖を処置するといった治療を行うこともあります。こうした綿密な歯科・口腔外科との連携は、当院の大きな強みです。歯科・口腔外科があることを理由に患者を紹介されることも少なくありません。今後も歯科大学の附属病院の耳鼻咽喉科であるという強みも活かしながら、地域の医療に貢献していきます。

Dr's profile



Jiro
limura

飯村慈朗 医師



出身地

東京都大田区出身

趣味

動物飼育
(熱帯魚や爬虫類も飼育)

医師になったきっかけ

医療系の家系だったため、自然と医師を目指しました。

スポーツ歴

アメリカンフットボール
(高校、大学)

座右の銘

明るく楽しく最善を尽くす

Dr's profile



Tsuneya
Nakajima

中島庸也 医師



出身地

東京都都台東区出身

趣味

ワイン
(イタリア、フランス、日本のものが好き)

耳鼻科医になったきっかけ

自分が扁桃と鼻の手術を受けているから

スポーツ歴

バスケットボール
(大学)

座右の銘

他人に活かされる

医療機関の先生方へ

市川総合病院 診療情報提供書

検索

当院と地域の病院・診療所の先生方との間で、患者様のご紹介などを円滑に行えるように、「地域医療連携室」を設置しています。ご不明な点がございましたら、下記へお尋ねください。

患者支援センター地域医療連携室 TEL 047-322-0151(内線2214) FAX 047-324-8539(直通)

開室時間 月曜日～金曜日：午前9時～午後5時 土曜日：午前9時～午後1時(第2土曜日は休診日)